



CJM REPORTER



トロント日系福音教会新任牧師
佐藤明男牧師、陽子夫人

カナディアン ジャパニーズ ミニストリー (CJM) 2004年春号

MY CHURCH

～ 惹かれる それとも 拒まれる? ～

金城 ノリ (ディレクター)

ある時、私の友達がこう言いました。常に思っていることなのですが、教会にクリスチャンでない友達を誘うには大きな危険を伴います。

まだクリスチャンになって間もない彼が、熱心に友達にイエス様のことを伝えようとした時の悲惨な体験を語ってくれました。

ある日曜の朝、彼は友達を教会へ誘いました。それは、とても寒い春雨の降る日でした。その友達は教会まで車で来たのですが、教会の駐車場は満車、仕方なく少し離れた所に路上駐車をしました。傘もなく、教会にたどり着く頃にはずぶ濡れ、その友人は恥ずかしい思いをしながら、入り口で彼を待っていました。

あいにく、彼は車の故障が原因で遅れてしまい、その間友達は彼を待っていたいにもかかわらず、教会のアッシャーに歓迎され、一番前の席に誘導されてしまいました。

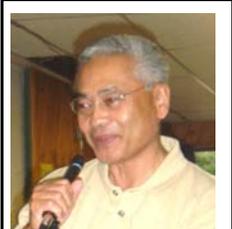
彼が着いた時、献金が今まに行われるところでした。その友達はちょうど献金の器を渡され、何も分からずあわててポケットを探って、20ドル札を差し出していました。後で分かったことですが、その20ドルはその午後、食料品を買うために取ってあったものでした。



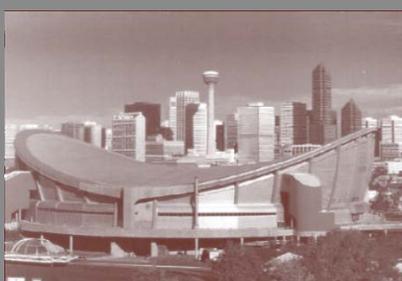
そして、その日のメッセージはダニエル書の定め70週からでした。言うまでもなく、初めて教会へ足を運んだその友達にとって最悪の経験だったでしょう。礼拝が終わりに近づき、初めての訪問者の自己紹介の折、その友達は再び恥ずかしい思いをさせられてしまいました。おとなしくて、恥ずかしがりやの友達は彼に助けの視線を投げかけ、彼が変わってその友達を紹介しました。

私がこの出来事を紹介したのは、実際にあったことだからです。教会はその熱心さ、一心さのあまり、逆に他人の本当に必要としていることに対して鈍感で、気付かないことがあります。その友達が二度と教会へ足を運ばなかったのは無理もないことでしょう。

私たちが、未信者の方に救い主を伝える時、繊細に接することができるよう訓練を受けるのはとても良い事でしょう。教会は本来恐れられる場所であってはなりません。しかし、その一方、私達が友達や家族を教会へ連れて来た時に準備万端であるために、しっかりと計画、訓練、教会内でのコミュニケーションがとれていなくてはなりません。



金城ノリ
2000年よりCJMのディレクターを務める一方、トロント日系福音教会の長老会の長でもある。



カナディアン ジャパニーズ ミニストリー (CJM)

カルガリー日系福音教会 (アルバータ州、カルガリー市)
にて週末の交流会が行われます。

日程: 2004年5月28日～30日

又、CJM年次総会は牧師、役員のと牧師夫人の会が持たれます。

詳細はティナ・サコン (秘書) 403-242-0849又は、
Eメールで sakonb@telus.net まで。

レスブリッジミニストリー



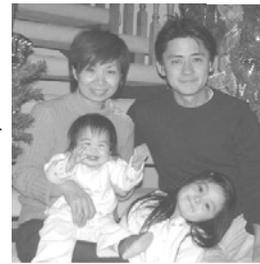
秋山賢牧師
真理夫人
創平君(5)
有紗ちゃん(3)

主の御名を崇めます。この度、中尾先生に代わりレスブリッジにて日本人の為に奉仕をさせていただくことになりました。

日本の神学校を卒業後1997年夏から3年間、私達夫婦はレスブリッジ日系人クリスチャンフェローシップで週末奉仕をさせていただきました。その機会を通して私達は日系人教会の現実の課題を知り、祈りに加えてきました。そのような中で、教会はメッセージを聞いていればそれで自然に形成されていくのではなく、信徒を養い育てる、また共に祈り合い、励ますフルタイムの牧会者の存在の必要性を痛感してきました。昨年秋にブライアクレストにおいて宣教大会が行われました。そこで私達はこのレスブリッジの働きに対しての情熱と、それに向かう信仰のチャレンジをそれぞれに神様からいただきました。以来私の内にその宣教大会の中で神様が語りかけて下さったローマ10:14-15とIIコリントの5:17-20の御言葉がずっと留まっています。

どうぞ私達のことを祈りのうちに覚えて下さり、ご指導下さるようお願いいたします。

秋山賢牧師：1966年東京の牧師家庭に生まれる。東京聖書学院卒業後、シオンの群れ中野教会伝道師就任。1997年から3年間のプレーリー・バイブルカレッジ在学中、レスブリッジ日系人クリスチャンフェローシップにて奉仕する。その後サスカチュワン州のブライアクレスト・セミナリーに移り新約聖書を学び、今春卒業予定。



中尾牧師、
真紀子夫人
ノアちゃん
アンジェラちゃん

昨年の秋から、アフタヌーンティークラブ、メンズクラブのメンバーが、教会行事に参加される為に、毎月色々なイベントを続けてきました。

秋には教会で、Flea Market、クリスマスのすき焼きパーティー、地域の方々が教会に来る事ができたよい集会となりました。その後も毎月、各クラブのメンバーが家族ぐるみで参加してくれるようになっています。また、彼らから家庭内の悩みを相談される事も多く、その中で証しをしたり、キリスト教について話すチャンスが与えられています。また、この夏から引越してこられた方も礼拝に集われ、小さな群に、新しい神の家族が増えている事も大きな喜びです。3月洗礼予定の高校生とのバイブルスタディーをはじめ、ガン末期の日系人のシニアの方が病床で救われたり、テイバーの日系人のメモリアルサービスをする事により、多くの日系人のシニアの方々の前で御言葉を語るチャンスが与えられたりと、教会内外で数々の神様の御手の業を見せていただいた時でした。

私達はこの5月31日を持って、3年の期間を終え、次の方にレスブリッジ・ミニストリーを引き継ぐ事になりました。プレーリーカレッジから毎週通った時から4年間、多くの方々の祈りとサポートに支えられてきたからこそ、このミニストリーがここまで祝福されている事を振り返り、感謝の思いで一杯です。

これからも神様の御業が、更なる祝福としてこの地におこされ、このミニストリーが飛躍的に大きく成長していくことを期待し、引き続き皆様のお祈りとサポートを心からお願い致します。



ブレンダ、ウェイド

CJM新任会計係の証

ブレンダ オハラ ピーターズ

私はトロントで生まれ育った三姉妹の末っ子です。会計士として過去22年間勤め、現在総合会計のマネージャーとしてニコンカナダに勤めています。私は今、公認総合会計士をめざし、この夏、公認簿記を習得予定です。私は1996年にトロントで行われたビリー・グラムの講演がきっかけでクリスチャンになりました。それには私の姉と義兄が大いに影響していました。彼らが私を救い主への愛と信仰へと導いてくれたのです。

私の母教会はトロント日系福音教会で、1997年に教会員になりました。教会の女性グループとの聖書勉強会に参加することに喜びを覚え、そのなかで信仰が深められ、教えへの理解が深められました。主は私をJCMの働きへと導かれました。私は主が救ってくださったこと、主に仕える機会を与えて下さったことに感謝します。夫ウェイド・ピーターズと結婚して2年半、現在オンタリオのミシサガ市に住んでいます。

寄付金

秋山牧師のミニストリー支援又は、一般寄付金はCJMの会計係までお送りください。

Brenda Ohara-peters
669 Hillman Cres.,
Mississauga, ON
L4Y 2J1

ウエスリーチャペル

～交わりによる福音伝道の分析～

吉田エドワード牧師

約三年前、国際結婚の（日本人とメキシコ人）移住者が息子とともにトロントに来ました。母親は息子が日本語を保つように、トロントにいくつかある日本語学校に入学させました。私たちの教会員の一人である千木良（ちきら）みどりさんも娘さんの一人を同じ学校に通わせていました。これを通じて間もなく二人の母親は友達になりました。しかしこのメキシコから来た夫婦はクリスチャンではなく、教会とのコンタクトもありませんでした。

彼女がエマージェンシーに入院したとき、私たちの教会員は彼女のために祈り、サポートをしました。またみどりさんは、家族のために食事の差し入れまでしました。



吉田牧師、千木良みどりちゃん
スガイあけみさん(中央)
千木良みどりさん

去年の秋頃から彼女のご主人がスペイン語の教会に行くようになりました。ある日その教会の牧師が彼女に日本語のバイブルを与えました。彼女は人生で初めてバイブルを読み始め、特にご主人がイエス様を受け入れ、変わり始めてからは特に熱心に読むようになりました。そこで今年のバレンタインデーに、セルジオ/あけみ サルモランご夫妻と、息子の健太君が私たちの教会の日曜礼拝に出席しました。礼拝後彼女は牧師に面会を求めました。イエス様を彼女の心のなかに受け入れるようにお祈りしたときにはあけみさんは既に果物が実って落ちるような状態でした。あけみさんは私たちの目前で、交わり伝道のすばらしい一例となりました。全ての教会とそれぞれのクリスチャンは、教会外の一人か二人の友達とともにこの交わり伝道を試みるべきであると思います。アーメン

バンクーバー日系福音教会

バンクーバー日系人福音教会の近況

福迫徹也牧師

私たちの教会では昨年2回の聖書セミナーを持ち、教会形成について学ぶ時を持ちました。そこから聖書が教える5つの活動（礼拝、交わり、教育、伝道、奉仕）を教会形成の基本的な柱として、キリストのからだを建てあげていく必要性を学びました。

現在、教会の中にある小グループの働きも少しずつ増え、成長してきています。家長会(Men's group), 婦人会(Women's group), マリヤの会 (Young Women's group), バルナバ会(Young Men's group), シニアーズ友の会(Senior's group), ユースグループなどがあり、礼拝後、定期的集まって活発に活動しています。

今年は、更に進んで、これらの小グループの活動によって先に挙げた教会の5つの活動の中の伝道と奉仕が進められ成長していきたいと願っています。

また、「みことばによって歩む」ことが今年の年間のテーマです。一人一人が毎日聖書を読み、キリストの救いを喜び、主に導かれて歩むことを目標にしています。



福迫牧師夫妻
シンヤ君(6)
ユウヤ君(4)
カズヤ君(2)

バンクーバー全域の日系人伝道、地域に住む英語を母国語とする人々への伝道、日本からの留学生への伝道の3つが教会の宣教の柱です。教会の日本語部と英語部は車輪の両輪として一致しながら、キリストのからだを建てあげ成長させていき、主から与えられた宣教の使命に進んでいます。

伝道報告

中野ユリ牧師

エドモントン日系キリスト教会

エドモントンでの伝道活動の特別な場所として、テラナスハウスがあります。テラナスハウスと聞くと奇妙な名前を感じるかもしれませんが、それは聖書の中の使徒行伝の9章10節の『ツラノの講堂』から由来しています。それは使徒パウロがエペソの町にある『ツラノの講堂』で福音を教えたからです。実際には男子学生のための学生寮を日本で創設したある宣教師が『テラナスホール』と名前をつけました。

エドモントンでは、このハウスを教会のオフィス、バイブルスタディ、青年部の活動の場所として、また祈禱会、家庭集会、愛餐会の場所として使用しています。私達の教会の会員の一人の親戚の方がこのハウスを購入し、それを教会のために使用することを許可してくださいました。またこのハウスは日本から英語を学ぶために来られたESL学生のための場所として、またエドモントンを訪問される宣教師や牧師や他の方々の宿泊の場所ともなっています。毎週水曜日の夜は、青年達がここで夕食を一緒にした後、聖書の学びをします。そして多くの青年達が彼らの友人をこのバイブルスタディに連れてきます。そしてそれらの方々に教会へ導く伝道の入り口ともなっています。

テラナスハウスミニストリは特別な伝道方法の一つです。私はエドモントンにおいて神様が備えてくださったこのミニストリーは人々が信仰を持って、信仰が成長するために、人々に励ましを与える点で最も有効な効果的な場所であると思います。

神様が更に神様の栄光のために、このハウスを祝福して、更に用いて下さいます様にお祈りします。



テラナスハウス